

『 子供を育てる地域コミュニティ 』

満開の桜の時を過ぎ、季節は春から夏へと向かっていきます。町内小中学校では運動会・体育祭に向けた活動が始まります。【子供は町の宝】子供たちの元気な姿を見るのを楽しみにしている方も多いと思います。爽やかさが増していく風を感じながら、心と過去の記憶が頭に浮かんできました。思いつくままの拙文ですが、さらっと目を通していただけたら幸いです。

自分が小学生だった頃、道で会ったお年寄りに「どこのわらしだ？」と聞かれ、姓を答えると「ああ、〇〇の息子（孫）か」と言われることがよくありました。川の上流に向かうと「そっちなさ行けばあぶねーど」と、声をかけてくれました。

地域の方々は、お互いを知り、情報共有も多く、子供たちは地域に見守られていたのだと思います。善い行いは褒められ、悪い行いは叱られ、その情報もしっかり地域に広まっていました。

各地区には子供会があり、地区ごとの行事がありました。学校区ごとに予選会を行い開催された、子供会対抗町内ソフトボール大会なども楽しかった記憶として残っています。

運動会では、早朝に各町内会のテントを張りに来た地域の方が、ついでに学校の児童テントの設置を和気藹々として手伝っていました。

自分の小学生時は足袋から運動靴へと履物の移行期でした。足袋は軽く感じましたが、石ころを踏んだ時の痛さは忘れられません。軽くなるからと足に焼酎を塗られて「本当だ、軽くなった！」と思いつき暗示にかかっていた。足が速くなるからと、タンポポの花や汁を足に擦りつけている人もいました。

コース脇を一斗缶を叩きながら応援し並走する名物的な人物は、会場を賑やかにしてくれました。ご近所家族が交じり合い、みんなで食べるお昼は格別でした。運動会といえばバナナです。今はいつでも食べられるバナナは、運動会の時しか食べられなかった貴重な食べ物で、「あんまり食べると鼻血が出るよ。」などと言われたものです。

中学生時の200m走は今思い出しても可笑しくなります。練習では4人ずつ走っていましたが、当日欠席者がいたために、「7コースあるから7人で走るぞ。」と先生が言いました。ところが直線走り終え、カーブに差し掛かった所で私の走る7コースはなくなり、ごみ箱の上を跳び越えながら走る姿は、観客の皆様は大うけでした。少しの間、有名人になっていたような気がします。

運動会・体育祭は、地域の大切な行事で、コミュニティを形成するのに欠かせない、ひとつのお祭りのような存在だったと思います。

ここ数年のコロナ禍の状況にあって、子供たちも地域の方々も閉塞感を持った日々を過ごしています。今年度は、少しでも制約が取り除かれる中で運動会・体育祭が行われ、児童・生徒の躍動を通して地域が一体化し、心晴れる一日を過ごせることを祈念するばかりです。

話は変わりますが、数年前、神戸のとあるマンションの住民総会で、マンション内での挨拶禁止が明文化されたというニュースがありました。発端は、小学生の子を持つ保護者からの「知らない人に挨拶されたら逃げるように教えているので、挨拶をしないように決めてほしい。」との提案でした。神戸市で起きた誘拐事件を心配した「子供には住人かどうか判断できないため教育上困る。」という思いに年配の参加者も賛同し、「挨拶しても相手から返事がなく気分が悪かった。」「お互いやめましょう。」との声もあり、意見が一致したと言います。

このニュースについては賛否両方の声が多数寄せられました。各地域の事情にもよりますが、地域コミュニティは少しずつ希薄になってきている状況があります。

過去に、コミュニティスクール提起に関わる説明・講話を聞く機会がありました。その時に感じたポイントは、「地域の力を活用した学校づくり」と「学校を中心に据えた地域再生」の2点でした。江差町においてもコミュニティスクールの充実が課題とされています。各校に学校運営協議会が設置され、学校の縁の下の力持ち・強い味方として、江差にある力を生かし、町全体で江差の子供たちを育てる「地域の力を活用した学校づくり」が進められています。

学校が児童・生徒の自己肯定感を育み、母校への誇りを持たせられるような、正のスパイラルを継続していくために必要なのは、「格好良い先輩」の姿が創られ、その姿を目標とする下級生に受け継がれ、伝統として積み重ねられていくことだと考えます。その延長上に、江差町の教育目標：【美しい自然と歴史・文化・郷土愛を受け継ぎ、心豊かに学び、郷土江差の未来（あす）を拓くたくましい江差人づくり】の達成があるものと思います。そのためには「大人が一番の格好良い先輩」であることが望まれます。

「地元で働き、少年団の指導に携わりたい。」と言った高校生がいました。少年団の指導に関わっていた大人が格好良い存在であったからだと思います。江差町には9つの少年団、20のスポーツ団体、30の文化団体があり、そこで活動に参加している子供たちがいます。

家族のために働く姿、町のために奉仕する姿、町内外に誇れるお祭りを創り上げていく姿、人の為を思い動く優しい姿、子供たちは様々なところで格好良い大人の姿を目にし、心に刻み込みます。江差の町には、「未来の江差を拓くたくましい江差人」となる子供たちを育てるコミュニティが残されています。

先日、道ですれ違った下校途中の小学生が、元気な声で「こんにちは！」と挨拶してくれました。それは、私をとてとても幸せな気持ちにさせてくれました。きっとこの気持ち良い挨拶を褒めてくれた大人もいるでしょう。成功体験ともつなぎながら、家庭・学校とともに地域コミュニティが育てている力だと思います。私たち大人は、子供たちに身につけてきている芽をしっかりと育て、つないであげたいものです。

各学校で進行している学校運営協議会を中心に、子供を育てる地域コミュニティの力が更に高まり、学校を支える力となってもらえれば、大変心強くありがたいことです。

【郷土江差の未来（あす）を拓くたくましい江差人づくり】を目指し、私も格好良い大人であるよう努力したいと思います。